

LP-940NEWSII/XP-1310NEWSの主な仕様

	LP-940NEWSII	XP-1310NEWS
形式	ローラー搬送方式による液浸漬方式(片面仕様)	
処理工程	現像→水洗→フィニッシング→乾燥	
搬送方式	ローラー搬送	
処理感材	新聞用サーマルネガプレート HN-NV・HN-B	
適合プレートサイズ	幅:254~940mm 長さ:370~1,150mm 厚み:0.3mm	幅:370~1,150mm 長さ:370~1,150mm 厚み:0.3mm
処理薬品	現像液:HN-D 現像補充液:HN-DR フィニッシングガム液・補充液:HN-GV 水垢防止剤:FCT-422 水洗水添加剤:HN-T ^{※3}	
現像時間	12秒(30°C)	
処理速度	1,400mm(12秒現像)	2,000mm(12秒現像)
タンク容量	現像:20ℓ 水洗:4ℓ フィニッシング:4ℓ	現像:45ℓ 水洗:8ℓ フィニッシング:8ℓ
乾燥方式	水平搬送/温風吹き付け方式	
電源	AC200V±10% 単相2.7kVA 13.5A 50/60Hz AC200V±10% 3相2.7kVA 8.9A 50/60Hz	AC200V±10% 単相5.2kVA 26.0A 50/60Hz AC200V±10% 3相3.7kVA 18.3A 50/60Hz
外形寸法	1,550(幅)×1,042(奥行) ^{※1} ×1,060(高さ) ^{※2} mm	1,836(幅)×1,387(奥行) ^{※1} ×1,064(高さ) ^{※2} mm
重量	機械本体:約300kg(液仕込み時:約335kg)	
使用環境条件	温度:20~27°C 湿度:30~70%	
標準付属品	フィルター/軸受け/洗浄用具 他	
オプション品	●補充タンク選択オプション(集中補充/単体補充) ●操作面変更キット ^{※3} ●廃液位置変更キット ^{※3} ●集中廃液バルブキット(廃液位置右使い仕様/左使い仕様) ●チラーキット	

※1…出口センサー含まず ※2…設置条件により異なる ※3…LP-940NEWSIIは対応不可

集中補充装置LP-RLの主な仕様

接続対象機	LP-940NEWSII / XP-1310NEWS	電源	AC100V±10% 単相0.2kVA 2.0A 50/60Hz
最大接続台数	5台	外形寸法	800(幅)×700(奥行)×780(高さ) [※] mm ※設置条件により異なる
最長接続距離	20m以内		
処理薬品	現像補充液:HN-DR フィニッシングガム補充液:HN-GV	重量	機械本体:約70kg(液仕込み時:約120kg)
タンク容量	現像補充液タンク:30ℓ フィニッシングガム補充液タンク:15ℓ	使用環境条件	温度:20~27°C 湿度:30~70%

XR-2000/5000の主な仕様

	XR-2000	XR-5000
電源	AC100V 50/60HZ	
消費電力	0.88kW/1.04kW	1.05kW/1.25kW
本体寸法	507(幅)×672(奥行)×840(高さ)mm	507(幅)×758(奥行)×1,070(高さ)mm
重量	102kg(稼働時:110kg)	130kg(稼働時:140kg)
処理方式	減圧蒸留方式	
処理可能な廃液	富士フィルム製サーマルプレート用現像廃液	
加熱冷却方式	間接ヒートポンプ方式	
処理能力 ^{※1}	2.2ℓ/時(50Hz) 2.4ℓ/時(60Hz)	4.8ℓ/時(50Hz) 5.2ℓ/時(60Hz)
濃縮率 ^{※2}	運用条件:20%	
真空度	20 ~ 35torr	
使用冷媒	R134A	
設置環境条件	周囲温度:15°C~25°C、相対湿度:30~70% ただし結露がないこと	
標準装備機能	タイマー機能、再生水積算機能、AF-A自動攪拌機能	

※1…処理能力:標準環境条件下での蒸留再生水量(ℓ/時間) ※2…濃縮率:運用濃縮率は各社の状況によって変更する場合があります。

XR-R60の主な仕様

電源	AC100V-50/60Hz 3A 感度15mA漏電ブレーカ付
再生水タンク	60ℓ(有効保有量)※65ℓ(オーバーフローレベル)
水垢防止剤タンク	5ℓ(有効保有量)
送水ポンプ	ポンプにて送水/循環用(揚程5m) ①XR-R60より自動現像機の給水タンクに1.3Aホースで送水(4台まで接続可) ②新液仕込み時の給水は自動現像機1台毎で実施(複数台同時不可)
付加機能	①水垢防止剤添加濃度コントロール ②透過濃度検出器
水道水接続	①水道水配管(1.3A) ②水撃防止器付 ③減圧弁(0.15MPa/オプション)
外形寸法	567(幅)×673(奥行)×588(高さ)mm
製品重量	約50Kg

※仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。 ■社名、商品名などは一般に各社の商標または登録商標です。



FUJIFILM
SUPERIA

THERMAL CTP SYSTEM
For NEWSPAPER

新聞用サーマルCTPプレート
新聞用サーマルCTPプロセサー
大容量集中補充装置
現像廃液削減装置
再生水再利用装置

FUJIFILM SUPERIA

富士フィルムが考える「省資源」とは、単なる環境貢献にとどまるものではありません。

環境負荷削減と同時に、品質安定化、生産性向上、コスト削減を図り、

最終的には、企業全体の利益向上につなげていくものです。

そのために、富士フィルムが持つ多彩な製品群・品質管理技術・サポート技術などを総合的に投入し、

材料・工数・エネルギー・排出・水という5つの観点から、体系的に、徹底的にムダをなくしていく。

それが、新発想の省資源ソリューション『FUJIFILM SUPERIA』です。



新聞用有処理
サーマルCTP
システム

- 新聞用サーマルCTP プレート
- 新聞用サーマルCTP プロセサー
- 大容量集中補充装置
- 現像廃液削減装置
- 再生水再利用装置

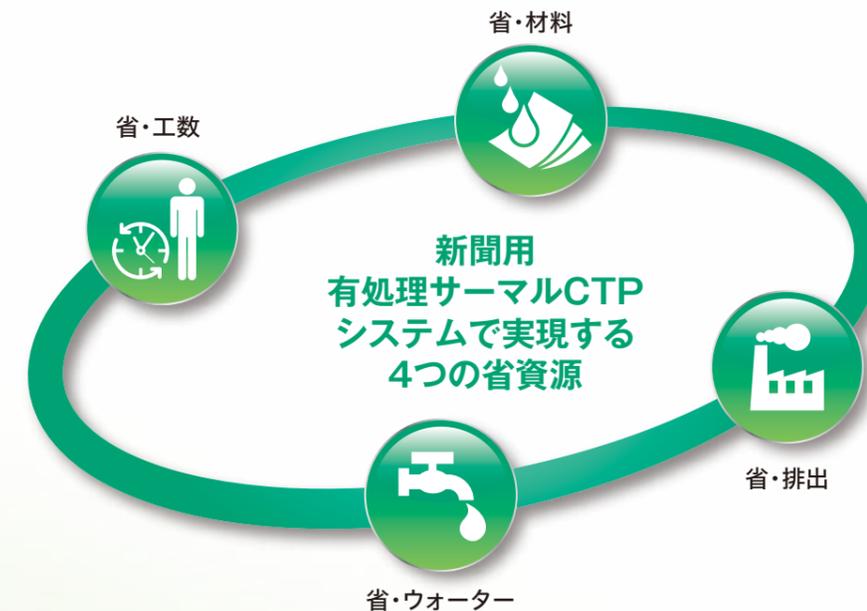
一分一秒を争うシビアな新聞製作現場で、CTPシステムに求められるのは、後戻りの心配がない絶対的な信頼性です。品質やスピードの安心感はあたりまえ。富士フィルムがSUPERIAの展開で追求しているのは、徹底した「作業負荷・環境負荷の低減」により、確実に利益につながる省資源。プレート、プロセサー、周辺機器の高い性能と信頼性が一体となり、「省・材料」「省・工数」「省・排出」「省・ウォーター」、4つの省資源を、高いレベルでトータルに実現します。

刷版性能・現像液感度の安定化によりヤレ版が減少

廃液濃縮により産廃が減少

ロングライフ化により母液も水洗水も減少

ロングライフ化により液交換頻度が減少



FUJIFILM SUPERIA SUPERIA HN-NV

新聞用サーマルネガプレート

■最先端の砂目技術『MGV』

【耐刷性も汚れにくさも同時に実現】

「砂目」は、CTPプレートのトータル性能を支える根幹技術の一つです。富士フィルムは、つねに究極的な新聞用CTPプレートの開発を目指し、時代と共に砂目構造を進化させてきました。『SUPERIA HN-NV』には、新聞印刷に最も適した砂目として、支持体表面の「親水化処理」を強化した『MGV』を採用。水幅が拡がり「水/インキバランス」が良好化したことで、仕上がりの「美しさ」、版の「強さ(耐刷力)・汚れにくさ・刷りやすさ」が、すべて同時に実現しています。

【高精細印刷にも対応】

MGVの効果により、刷り出しから刷りまでの網点変化が激減し、水が絞れるようになることで、刷りやすさが向上。過乳化やドライダウンもしっかり抑制できるため、高精細印刷・FMスクリーニング印刷にも高い適性を発揮します。

■高速重合技術

【高感度化とセーフライト安全性向上を同時に達成】

『HN-N』に比べて約1.5倍以上の高感度化を実現しながら、セーフライト安全性は十分に確保されています。

【優れた調子再現性を発揮】

高速に感光層が固まることでシャープな画像が形成され、微小点も滑らかに安定的に再現可能。入力された画像データに、つねに忠実な印刷仕上がりが得られます。

■強力なアブレーション防止層

【「合紙レス」を実現】

表面に無数に敷設したマト剤をアブレーション防止層膜で完全に被覆する方式を採用。マト剤が脱落しないのでCTP装置内の汚染が抑えられます。また、表面の耐キズ性が大幅にアップしたことにより、積み替え治具なしでの合紙レスが可能。合紙レスによって年間約2t^{*}のCO₂が削減されます。

※「3000m²/月」処理での試算

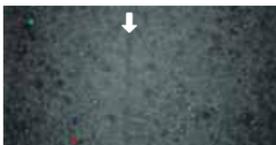
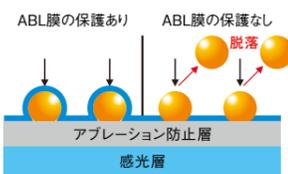
《ABL膜の保護効果》



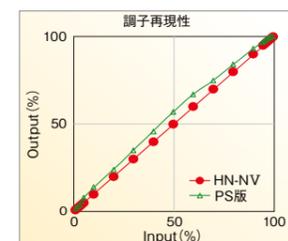
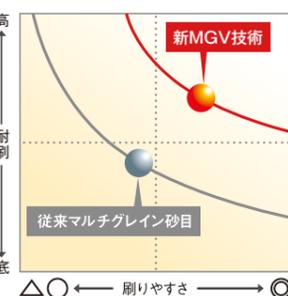
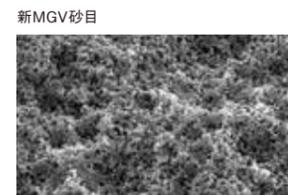
《強制キズ付け後の表面比較》



HN-N



HN-NV



FUJIFILM SUPERIA SUPERIA XP-1310NEWS

新聞用サーマルCTPプロセサー

■超ロングライフ処理を実現

【液交換サイクルが一気に6倍に】

高度な制御により、必要最小限の補充液量で最適な液感度状態を長期間維持できる、富士フィルムの自動補充方式。そのコントロール精度をさらに高めることで、処理液の交換サイクルが「1カ月、または3,000m²」から「6カ月、または18,000m²」にまで延びました。

【母液コストが確実にダウン】

処理液の交換サイクルが6倍に延びることで、仕込みの母液使用量は1/6に激減。確実に、母液コストの節減につながります。

【洗浄廃液も効果的に削減可能】

機器の洗浄回数が従来の1/6に減るために、洗浄廃液の排出量も減少。現像廃液削減装置『XR-2000/5000』を併用すれば、さらなる廃液カットが可能です。

■生産性アップに貢献

【抜群の瞬発力】

「現像時間12秒」という、飛び抜けた処理スピードを發揮。高感度サーマルプレート『HN-NV』と組み合わせれば、初版の処理時間が一気に短縮できます。

■液交換にかかる工数を大幅に削減

【オペレーターの作業負荷が軽減】

メンテナンス工数が減少することで、FFGSテクノサービスの年間保守パックも導入しやすくなり、「液交換・プロセサー洗浄作業のゼロ化」も可能になります。

【人にやさしいイーゼーメンテナンス】

面倒なローラー洗浄作業からオペレーターを解放してくれる「ローラー自動洗浄機能」の搭載や、各部品を容易に着脱できるシンプルな機内設計を施すことで、日常的なメンテナンスもラクラクこなせます。



FUJIFILM SUPERIA SUPERIA LL-6KIT

新聞用自動現像機ロングライフ化キット

■LP-1310NEWSIIを超ロングライフプロセサーに

お手持ちの『LP-1310NEWSII』に取り付けアップグレードすることで、処理液の交換サイクルを、『SUPERIA XP-1310NEWS』と同じ「6カ月、または

18,000m²」にまで延ばすことができ、「母液のコストダウン」「洗浄廃液の削減」「作業負担の軽減」などのメリットをすぐに現場で活かせます。

FUJIFILM SUPERIA XR-2000/5000

現像廃液削減装置



■産業廃棄物を大幅に削減

減圧蒸留方式により、富士フィルム製サーマルCTPの現像廃液を最大5分の1(体積比)^{※1}に濃縮し、最大80%までカット可能。産廃処理量・処理コストが大幅に削減できます。残った「蒸留再生水」は下水道へ放流できる水質^{※2}なので、トイレの洗浄水などに再利用することができ、また、分離処理には、濾過方式と違いフィルターを使用しないため、廃液以外に別途廃棄物が発生することはありません。

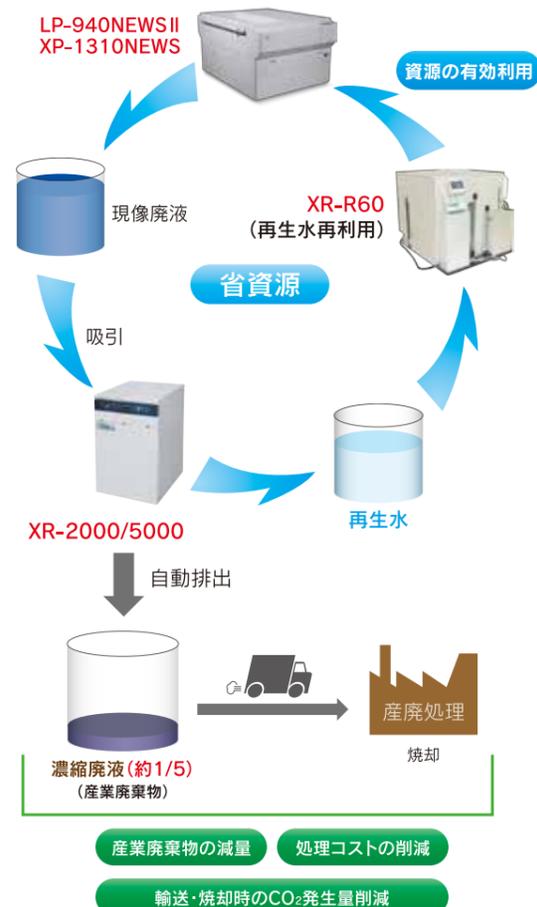
※1 従来の富士フィルム製CTPプレート『HN-NV』および専用現像液との比較
※2 地域(市町村)の条例の確認が必要

■CO₂削減により環境負荷軽減に貢献

廃液回収頻度が大幅に減少することで、廃棄物の運搬や、最終処分(重油焼却)に伴うCO₂排出量のトータルな削減につながります。

■使う人、現場に優しいエコ設計

減圧蒸留、ヒートポンプ方式の採用などにより消費電力を低く抑えられ、コンパクト設計によって省スペース化も実現。富士フィルム独自の消泡剤により、減圧蒸留における現像廃液の突沸も抑止でき、より安全かつ安定した連続稼働が可能です。



FUJIFILM SUPERIA XR-R60

再生水再利用装置



■一貫した「省・ウォーター」をサポート

現像廃液削減装置『XR-2000/5000』で生成される蒸留再生水を短時間で殺菌処理し、自動現像機の給水タンクに自動的に供給。現像廃液削減フローの構成の中にこの装置を

加えることで、無駄のない再生水のサイクルが可能になり、「究極的な環境対応」が実現します。

FUJIFILM SUPERIA LP-RL

大容量集中補充装置



■複数台のプロセサーを効率的に活用可能

1台に、最新鋭機『XP-1310NEWS』や従来機の『LP-1310NEWSII』『LP-940NEWSII』などの新聞用サーマルCTPプロセサーを最大5台まで接続することができ、現像

液、フィニッシングガム補充液の交換作業の負荷が軽減。大容量容器(100L)包材のリユースにより、包材のゴミも削減でき、交換頻度も減らせる、余裕の大容量タイプです。

FUJIFILM SUPERIA LP-940NEWSII

[4×1サイズ]新聞用サーマルCTPプロセサー

■コンパクトで高性能

「4×1」サイズ運用に最適な小型タイプでありながら空気劣化防止対策の徹底により、世界トップレベルの低補充・低廃液を達成。処理液の交換サイクル「1カ月、または1,600m³」のスタンダードタイプです。

■高い瞬発力を発揮

「現像時間12秒」のスピード処理が可能。高感度サーマルプレート『HN-NV』と組み合わせることで、初版の処理時間を確実に短縮できます。

FUJIFILM SUPERIA PLATE to PLATE

CTP版/PS版クロズドループリサイクルシステム

■CO₂量を最大60%も削減可能

新聞社様で使用済みになったCTP版/PS版を回収して従来と同等の高純度のアルミニウムを生成し、吉田南工場でプレート製造に再利用する、富士フィルム独自のリサイクルシステムです。アルミニウム新地金を使用する場合に比べ、CTP版/PS版のライフサイクル全体で発生するCO₂量を最大約60%も削減することができます。



PLATE to PLATEの流れ

- 富士フィルムのグループ会社で、リサイクルの推進窓口となる(株)FFGSグラフィックサプライが、新聞社様と取り引きのあるアルミニウム回収会社を通じて、富士フィルム製の使用済みプレートを回収します。
- 協力先の合金メーカーが、使用済みプレートから再生地金を生成し、さらに圧延

- メーカーが、その再生地金を使い純度の高い「CTP版/PS版生産用アルミニウムコイル」へと加工します。
- 富士フィルムは、このアルミニウムコイルを原材料として吉田南工場で、元の製品と同じ高品位なCTP版/PS版を製造します。